

第7章 自治会への加入促進のために

自治会は、地域の基盤となる団体であり、そこに住む人が自治会の活動に参加することは地域の連帯を深める意味でも非常に重要です。今後、少子高齢化がますます進行し、近い将来、大地震がくることが予想されていることなどを考えても、普段からいわゆる「顔の見える関係」を作っておく必要があります。

しかし、実際には核家族の増加や個人の価値観の多様化などを背景に自治会加入率は年々低下しています。自治会の中にも、どうすれば未加入の方に加入してもらうことが出来るのか、頭を悩ませているところも少なくないと思います。

自治会の加入を進めるために、それぞれの地域において自治会長が努力をしている中で、新設のマンション・アパートなどを対象に、加入に向けて創意工夫をこらした取り組みをしている地域もあります。以下に取り組みの一例を紹介します。

事例1

大家さんの理解を得たアパートなどの共同住宅については、賛助会員として自治会連合会費のみを徴収し、役員を免除することにした。その結果、加入率が上昇した。

* 「自治会に参加することは良いけれど、役員などをやりたくないから加入しない」という人は意外に多いものです。「高齢で役目をこなすことができない」などの事情がある場合もあります。そうした場合に、賛助会員として役員を免除するという方法は、お互いにとってメリットがあるのではないのでしょうか。

事例2

大手住宅管理会社に申し出て、自治会加入の文書を配布することについて了解を得て、毎月発行している「自治会だより」と合わせて、全世帯に配布し返事を待った。結果的に返事はゼロではあったが、管理会社も協力的であったので、今後も続けたい。

* 地域での活動内容を、住民の方に知ってもらうことは大きな意味があります。未加入者の方も参加しやすいイベントなどについてもお知らせできると良いかもしれません。

事例 3

ハウスメーカーより「建売を建築販売する際に、住宅購入希望者に当該自治会規約等の説明を行い、自治会加入を入居条件としたい」との要請があり、販売担当者に会則等の説明を行った。

*ハウスメーカーから自治会加入について要請があったケースです。住宅建築が行われる際には、工事概要が記載された看板が設置されますので、連絡を取って早めに自治会加入について話し合うことが賢明です。

事例 4

新築マンションの入居が始まった時点で、入居者の方から地域との関わりについて問い合わせがあった。自治会百科事典や当該自治会の規約等を手配して自治会加入に対する啓発に努めた結果、多くの世帯に加入してもらえた（マンション一棟で自治会を立ち上げた）。

*マンションやアパートなどに住んでいても、「地域との関わりを持ちたい」「でも、どうしたら良いか分からない」と思っている人は多いはずです。そういった時に、効果的なサポートが出来れば、自治会をはじめとする地域活動への参加も期待できます。

事例 5

入居前に管理業者と自治会加入について話し合い、下記条件に合意のうえ、全世帯を加入させることができた。

- 1 出入りが激しいため全戸加入を原則とする（自治会費は年間一括払い）
- 2 地域行事への参加や役員就任は免除。ただし、参加希望があれば認める。
- 3 ゴミ出しほか、地域のルールは守る。

*入居前に管理業者と話し合い、上手くいったケースの一つです。入れ替わりが激しい共同住宅の場合は、管理業者と話し合いをし、自治会費を年間一括で支払ってもらうことも効果があるでしょう。

事例 6

マンション建設前に、建築主と隣接自治会長が自治会加入を含めた協定書を締結した。これを受け、建築主は入居者に自治会加入の承認書を取った。これにより、入居者全員が自治会に加入した。

*マンションやアパートなどの共同住宅は、入居が済んでしまうと自治会加入を進めることが難しくなります。このケースのように、建築前に建築主などを含めて、話し合いをすることが有効な方法と言えるでしょう。参考として、協定書と承認書のひな形を掲載します。

協 定 書

●●（以下本件建物という）の新築工事に関して、●●自治会（以下甲という）と事業主●●会社（以下乙という）と施行業者●●会社（以下丙という）とは、本件建物の建設にあたり互いに信義、誠実、互譲の精神をもって円満な近隣関係を保持するため、下記のとおり協定する。

記

1. 概要

- 1) 敷地の地名地番：
- 2) 用途：
- 3) 規模・構造：
- 4) 延床面積：
- 5) 工期：

2. 現場責任者

- 1) 丙は、工事期間中、現場責任者を現場に常駐させ・・・・・・・・・・
- 2) ・・・・・・・・・・

3. 作業時間

本件建物の作業時間は、原則として・・・・・・・・・・

4. 工事の安全・災害の防止・損害賠償

- 1) 丙は、工事の施工に起因して万が一建物に被害を与えた時は・・・・・・・・
- 2) ・・・・・・・・

5. 騒音・振動防止

- 1) 丙は、振動・騒音を伴う事業については、・・・・・・・・
- 2) ・・・・・・・・

6. 工事用車両の管理及び道路の保守

- 1) 丙は、工事用車両の通行について、・・・・・・・・
- 2) ・・・・・・・・

7. 工事関係者の管理について

- 1) 丙は、工事関係者の風紀維持について・・・・・・・・
- 2) ・・・・・・・・

8. 自治会組織の結成

乙は、入居契約者に対し、本件建物引渡し後、管理組合を作り、自治会組織を立ち上げ、自治会連合会に加入すること、また自治会費があることを契約書ならびに重要事項説明書に記載する。

9. 規定外事項等

本協定に定めのない事項が生じた場合は、・・・・・・・・・・・・・・・・

本協定を締結するため、本書3通を作成し、甲乙丙各署名捺印の上、各1通を保管するものとする。

令和 年 月 日

甲 (地元自治会)
乙 (事業主)
丙 (施工業者)



・・・管理に係る承認書

今般、「岐阜市・・・」において建設される「・・・」の売買、契約の調印にあたり下記の事項について承認します。

記

- 1 ...の管理規定を原案のとおり承認し、この定めを遵守・履行することを確約します。
- 2 管理組合の管理者（理事長）が選任されるまでの間は、・・・・・・・・
- 3 ...の敷地及び建物の共有部分の保全の維持に関しては、・・・・・・・・
- 4 初年度の予算は、・・・・・・・・・・・・・・・・
- 5 当初の駐車場使用者については、・・・・・・・・
- 6 完成後、未販売の住戸がある場合には、・・・・・・・・

7 入居後は、・・・所在の地域との協調を図るため、マンションにて単独の町内会を組織し、入会することを承認します。ただし、町内会費は管理費とは別途、個々の負担になります。

令和 年 月 日
 ・・・・管理組合 御中
 ・・・・会社 御中

号室区分所有者



事例 7

地域の連絡事項（地域の現状やお知らせ）を作成し、配布しながら加入の要請を行った。また、資源分別回収の前日に未加入世帯を回って回収作業を行い、加入の要請をした。その結果、マンション全世帯が加入した。

*なかなかここまで行うことは難しいかもしれませんが、何度も足を運び、顔見知りになったことが、結果に結びついたのでしょう。やはり普段からそのような関係を築きたいものです。

広報

広報作成者
8月号、9月号

- 7月13日(日)自治会連合会の、川クリーン作戦、ごみ0運動に多数の参加有難う御座いました私達の住む町が少しきれいになりました
- 7月23日(水) 小学校より、岐阜県交通少年団自転車競技大会アリーナにて16チーム参加、小学校は5位に入賞
- 8月9日(土)午後7時～午後9時まで、盆踊り大会、公民館東側子供たちにお菓子、幼児には風船もでるよマンションの皆様へ
- 8月12日(火) 6時までに
下の玄関横までお出し下さい、自治会長が回収に伺います
回収するもの、新聞紙、雑誌、広告、びん、カン、鉄くず、ぼろ、牛乳パック、ダンボール、フライパン、ほうろろ鍋と皿は駄目よ
- 9月7日(日) 防災訓練 法境内にて
対象者 塔ブロックの332世帯の人
- 9月15日(月)祭F 鳥校区敬老会、該当者1190名、76才以上
アトラクション、 島小学校児童の楽器演奏、合唱、踊り
華中学校生徒 合唱
岐阜女子大学吹奏楽部の演奏

問い合わせ先、自治会まで
E、ミニ吹録の紙、インクは地球の町内会費から出しています

以下のような取り組みも有効です。

(1) 情報紙の発行

地域の方々に、自治会の活動を知ってもらうことは非常に重要です。未加入の理由を見ても、「活動内容が分からない」という意見もあります。そのためにも、地域で情報紙を作って、配布することは効果的です。その場合も、未加入世帯にも届けることができるような方法を考えることも必要です。

また、自治会の取り組みを紹介すると同時に、未加入者の方も参加しやすい行事についても掲載できるとなお良いでしょう。

(2) 自治会ホームページの開設

自治会のホームページを立ち上げてみてはどうでしょうか。普段なかなか自治会活動に参加しづらい人々にも自治会の活動を理解してもらうことが出来ますし、広く情報発信することも可能になります。地域には、パソコンが得意な方もみえるでしょうから、そういった人と協力することも大きな力となります。



(3) 皆が参加しやすいイベントの開催

自治会では地域の安全・安心、また親睦交流を図るため、様々な活動を行っています。しかし、地域との関わりが薄い人にとっては、なかなか参加しづらいもの。そのため、ますます自治会など地域との繋がりがなくなってしまうという悪循環に陥ってしまうケースもあるかもしれません。そういった人にも、気軽に参加してもらうため



に、お祭りやバザー、フリーマーケットなどのイベントを開いてみてはどうでしょうか。こうしたイベントであれば、子どもも一緒に参加しやすいですし、また交流も図りやすいものです。

その場合は、出来る限り多くの人に周知できるような方法を考えることも大切です。